

ナカバヤシの「紙でストロー 接着も天然素材」は本当に環境にやさしいか？

こういう記事を見れば、つい「原始に帰ったら」と考えてしまう。そもそもストローを日本語に訳せば麦わらである。

ストロー【straw】の解説 goo 辞書

- 1 麦わら。
- 2 牛乳や清涼飲料水などを飲むために用いる、麦わらやプラスチックなどで作った細い管。

麦わらは中空筒状でセルロースよりできている。

近代日本におけるストローの始まり

<http://www.shibase.co.jp/knowledge/index.html>

岡山県の南西部に位置する寄島町が発祥と言われています。寄島町史によると、明治時代に始まった真田の生産が原点で、麦稈真田(麦藁で真田紐のように編んだもの。)を用いた麦稈帽子(麦わら帽子)の生産が始まったのが明治34年ごろで、同じ頃に、麦稈を原料としたストローの生産が川崎三一の手によって始められたとなっています。つまり、最初のストローは麦藁です。英語で straw は、藁(ワラ)のことですので、ストローの名前は麦藁からきているのです。

ちなみに、strawhat(ストローハット)とは麦わら帽子のことですね。麦稈ストローから始まったストローも、原料の麦稈が農業構造の変革から減産したことと、原料の品質が不揃いであることから、紙ストロー(紙麦藁帽子を巻いて筒状にしたストロー)へと移行するも、消費の伸びから需要に応じきれず、ビニールストローへと移行し、そして、現在のポリプロピレンを原料としたストローに至っています。

すなわち麦わらを模した中空の形状や用法は変わっていない事から現在でも変わらぬ『ストロー』という名で呼ばれ続けています。

日本経済新聞 2019.11.3 (夕)

製本大手のナカバヤシは植物を原料とした天然のりを使った紙ストローを開発した。中国メーカーが多い従来品は化学のりを使うケースが大半。プラスチックごみによる海洋汚染問題を受けて飲食店などで紙ストローの使用が広がるなか、天然由来を訴えて差別化を図る。製本需要の縮小を受け、工場の閑散期を生か

ナカバヤシ

## 紙でストロー 接着も天然素材



兵庫工場で紙ストローの生産を手掛ける(兵庫県養父市)

ナカバヤシでは11月初旬から飲食店向けなどに

紙をらせん状に巻き、重なった部分をジャガイモなどから作った天然のりで貼り合わせる。フル稼働すれば1日約5万本を生産できる。ただ生産コストがかさむため、販売価格は従来品(1本約4円)より4〜8割高いという。

### 脱プラ、環境により優しく

販売する。既にヤンマーが大阪本社の社員食堂で試験導入することを決めている。口に入る商品で化学物質を使わず「ESG(環境・社会・企業統治)の方針と合う」(ヤンマー)としている。デジタル化に伴い、ナカバヤシは兵庫工場の業務を見直している。2015年に農業に参入し、工場の従業員がニンニク栽培やレタスの水耕栽培もしている。

した新規事業に育てる。製本や本の修復を手掛ける兵庫工場(兵庫県養父市)が製造する。細長